

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200178		
法人名	綾歌の太陽株式会社		
事業所名	多機能型ホーム 綾歌の太陽		
所在地	丸亀市綾歌町岡田東901番地1		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2014_021_kani=true&JiryousoCd=3790200178-00&PrefCd=37&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に記載されているように「世の為・人の為・いつも笑顔で」を常に考え、利用者様、ご家族様と我が家のように、家族のように、住み慣れた地域で隣近所の人々が楽しいひと時が持てる地域密着型の事業所として、お一人おひとりに適したサービスの提供を行っています。また、60インチ大型カラオケ設備があり好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

ホーム内は広く高い天井で、共有ホールと幅のある廊下によって明るく清潔感のある空間作りがされている。利用者は笑顔でにこやかに話をしており、職員も笑顔で接していることから、お互いに信頼しあい、様々な会話が交わされていると感じる。カラオケが完備されており、通所、泊まりの利用者が交流を持つ機会となっている。また、リハビリ的な効果も担っている。カラオケ、銭太鼓など、室内で行う活動の他、参拝や足湯など、事業所外での活動を取り入れ、利用者喜んでもらえるようレクリエーションが工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が築いてきた地域との関わりを断つことなく継続支援し、職員全員が理念の持つ意義・役割を理解し、利用者様支援のための指針としている。毎日利用者様に全員が朝昼声かけを行っている。	「世のため、人のため、いつも笑顔で」という理念に基づき、日々地域、利用者とのかかわりを大切に取り組んでいる。	例えば、「世のため」について、日々取り組む目標を定めることにより、理念を具体的な実践に結び付けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様は地元の方が多いため地域行事には自由に入出りでき、積極的に参加できるよう支援している。地元岡田小学校のキッズサポーターの講習会に講師として参加し、認知症の説明を行った。	地域の行事やコミュニティセンターの行事等に積極的に参加している。今年度、地元の小学5年生を対象に認知症についての話をし、好評を得た。利用者を自宅に送った時、お孫さんの反応が違ってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の認知症の方にも積極的に支援を行い、カラオケやお話し合い等で昔のことを思い出され、自分の経験して来られたことを実践されている。また、最新の情報等を教えてもらうべく市の担当者から勉強会等を開いてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、運営推進会議にご出席された民生委員、地元代表者、市担当者の貴重な進言等に耳を傾け、改善を行っている。	地域の代表者として積極的な方の参加があり、貴重な意見を頂いている。「職員がやさしい」とほめ言葉を頂くなど、職員一同喜んでいる。市の担当者との連携も取れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2年6か月が経過し、色々と介護の幅が広くなり、生活保護者、障害者等の受け入れも市と相談相談しながら対応してきている。	生活保護者についての相談をすることにより、その対応について助言を得るなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠については認知症が進行し、問題行動が多くなり危険なため、また 認知症の利用の方が増えており、家族等の面会も多く問題がある時もあるので、動きをよく見て対処している。	身体拘束の事例はない。原則、玄関の施錠はしない方針で取り組んでいるが、認知症の方のその日の状態に応じて、適宜対応を考え、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	国・県の方針に基づき勉強を行い、利用者様の自宅訪問時や事業所内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランにより自立支援を利用者様ごとに行っており、成年後見制度等については研修会で勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時及び契約時に必要な事柄や、料金改定時等において重要事項説明書・運営規定等を口頭で読み上げ、分かりやすく説明し、利用者様に納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学会や体験会等を随時実施し、面談等を行い、当事業所の内容を説明している。また、意見箱を設置し、利用者様の意見をお聞きし、改善に努めている。ご家族もよく訪問されるのでその時現状等を説明している。	家族には訪問時に意見を聞くよう努めている。特に苦情などは出ていない。協力できることは対応に努めている。例えば、16時までとなっているが、家族の都合で19時まで対応するなど、している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は随時現場の職員と対話できる形を取っているため、即断即決し、改善に努めている。若い職員の意見を取り入れ、利用者様との初めての運動会等を実施した。	代表者、管理者は職員との対話を大切にしている。特に若い職員の意見を尊重することにより、いろいろなアイデアが出され、運動会の実施、善通寺へのお参りなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ようやく2年6か月が経過し、初めて定員25名の利用者様の受け入れができた。今後は中味の充実を図り、また、収支の改善に努め、職員のボーナスを上げて行きたい。職員はパソコンの勉強等に励んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修にも積極的に参加させ、資格取得等を応援している。若い人には特に自分のためにも頑張るよう話しかけを行っている。パソコン等ができるように勤務終了後、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ケアマネジャーは介護の経験が長く、人脈があり積極的に情報交換、人脈利用を行っている。職員は資格取得時、講習会等で人脈作りに努力している。職員がキャラバン・メイトに参加し、認知症の啓蒙に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人及びご家族の皆様にご事業所を体験していただき、雰囲気等に納得してもらってから利用してもらっている。面談時には今までの経歴等をよくお聞きし、改善できるようにしている。ケアマネジャーがケアプラン作成時に良く話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく利用されようとする方に見学・体験をしていただき、雰囲気に慣れてもらい、利用者様の要望をお聞きし、ケアプラン等を作って確認してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーが中心となりじっくりと利用者様、ご家族のご要望に答えられるか否かを見ていただき、納得をしてからご利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として、また人生の先輩として接している。利用者様が少しでもゆったりと自分の時間が持てるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のご家族・親戚の方に自由な時間に訪問していただき、家族との対話・交流がゆっくりと持てるように配慮している。泊まりの方は自室にて面談が可能である。現在、ご家族・親戚の方がよくみえられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元中心で運営しているので、いつでも訪問してもらえる体制を取っている。地元有志のカラオケ大会やボランティアによる舞踏・大正琴・フラダンス等の訪問がある。また、地域の方が銭太鼓を教えてくれている。	地元中心のカラオケ大会やボランティアによる舞踏・フラダンスなどの訪問、また銭形太鼓を教えに来てくれることがある。外部の人とのかわりにより、利用者の服装が変わってくるなど、変化が見られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな人生経験をされて来られた方が利用されているので、できるだけ共同の場が持てるように、カラオケを中心に季節のお絵描き、催し物、毎月のカレンダー作り頑張らせていただいている。時々お買い物、まんのう公園の遊山にお連れしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それぞれの理由があって利用契約が終了された方でも、今までの馴染みの関係を活用して時々訪問し、相談に努めている。再度当事業所を利用される方もおられる。入院された方にはお見舞いに行き、相談に乗ってあげる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約の時やちょっとした談話の時に、利用者様の今まで生きてこられた人生体験等をお聞きし、要望があれば対処している。	契約時や送迎時などに生活歴をよく聞き、その方の特徴を知るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学に来られた時や契約時のちょっとした談話時にご家族の方、ご利用様のこれまでの生活歴等をお聞きし、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態、その日の状況等を把握し、利用者様の身体の状態を連絡帳に記載し、職員全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、自ら現場に入り、利用者様の状況を見て対応・指示を行っている。毎月モニタリングを行い、利用者、ご家族と相談し、3ヶ月ごとに計画を見直している。	ケアマネージャーを中心に日々対応を検討している。毎月モニタリングを実施し、3か月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員が介護記録に利用者様の状況を記載し、朝の引継ぎ時に情報を交換し、職員間で情報を共有している。ケアプランについて職員に回覧し、共通認識を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりに朝・昼声かけを全員が行い、身体の状態等を把握している。利用者様は家族の一員として接している。小規模多機能のメリットを活かし、家族的な雰囲気大切にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の利用者が中心で、近くの人や家庭の事情が分かる人が多く、昔からのお付き合いを継続して取り組んでいる。また、家族的にお節介をする間柄である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の楠原内科・整形外科を中心とし、専門医は、滝宮総合病院にお願いしている。また、個人病院については送迎を行っている。病院に行けない時は往診に来てもらっている。	本人・家族の希望で地元の開業医を中心に送迎をしている。専門の医療機関を受診する時は、家族同伴により対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者数との関係もあり、現在はパートの看護職員で対応している。看護の立場から薬管理・バイタルチェック等について専門的に支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元医療機関との関係を密にし、利用者様の健康状態を見て処置してもらっている。医院からも総合病院への紹介等の支援をもらっている。病院のワーカー等と連絡し合って退院、介護日時をきめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ重度化された利用者様はおられないのでご家族と話すこともないが、状況が変われば関係者とともチームを組んで支援して行きたい。	現在、対象者はいないが、今後の対応について、家族、本人の希望を尊重し、対応を考えている。見守り体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、ケアマネージャー・介護福祉士のこれまでの経験を活かし対処している。緊急を有する場合は家族と連絡を取り、救急車を要請して行きつけの総合病院に搬送してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに基づき対応して行く。火災訓練・地震対策訓練は実施している。岡田コミュニティセンターと相談し、対応している。地元の防災訓練にも参加していく。	防災マニュアルの整備、火災・地震対策の訓練は実施されている。地域のコミュニティセンターと連携を取り、防災訓練に参加している。災害時の連絡体制も整備されている。	火災や天災に備えて、地域との相互の協力体制について、より具体的に検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の一人ひとりの、今まで生きて来られた環境等に配慮し、声かけを行い、今日一日を有意義に過ごしてもらっている。	今までの生活歴を尊重し、その方にあわせた声かけをし、1日を有意義に過ごしてもらえるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	絵付け、工作、カラオケ等の自己表現ができる場の提供を行い、楽しさを味わってもらっている。また、外出等の支援も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ共同での場の活動を考えて支援をしているが、一人でゆっくりしたい利用者様に対しては、行動を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出入り自由のため、利用者様の行動に配慮し支援している。おしゃれをされて来た時は「きれいですね」等、声をかけている。踊りの支援時は着物等を借りて着用し、明るく、楽しいひとときを過ごされるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせた料理の対応はできていないが、歯の悪い方等には軟飯、きざみ等の個別対応を行っている。食事の片付け等はできる限り利用者様に協力してもらっている。	「この食事は美味しい」といわれる評価を大切に、調理師の経験を活かし、メニューの工夫がされている。お茶、紅茶等は自分で好きな時に飲めるように自動給湯機が設置されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	白内障の手術を行わなければいけない方に栄養管理を行い、血糖値のコントロールを実施し、血糖値が下がり、手術が成功した事例がある。ベッドに長くおられる方には水分補給に注意し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて支援(入歯の清掃)を行っている。昼食前には嚥下予防のため、カラオケ体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの方へは排泄チェック表を作成し、利用者様の排泄パターンを把握している。頻繁にトイレに行かれる方は注視し、フォローを行っている。	排泄チェック表により対応しており、オムツ使用者は少ない。トイレは広くゆったりと利用できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜類を多めに食事し、大便のコントロールは処方された薬を服用し、排泄時間を昼間に合わせるように努めている。また、胃腸等の弱い方・入歯のない方にはミキサー食、軟飯で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	泊まりの利用者様は朝一番に広い浴槽にゆったりと入浴し、くつろいでもらっている。また、通いの利用者様の来所を待ち、お友達と一緒にゆっくりと入浴してもらっている。皆さんいい湯だなと言われている。	泊まりの利用者は朝に入浴、デイサービスの方は友達同士で入ったり、夫婦で利用の方は夫婦で入る等、一人ひとりの希望を大切に対応している。浴室は広く、必要な福祉用具が置かれている。入浴を嫌がる人には足浴サービスをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊まりの方は、夕食後は自由に自室・ホールにて過ごされている。通いの方で身体の不自由な方に対しては、空き部屋を解放し、休養してもらっている。一般の利用者様はリクライニングシートの長椅子でくつろいでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬剤の中身を確認し、介護職員がわかるように服用明細表を作成している。また、バイタル表等の活用を行っている。時々、医師に薬処方について相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広報ボードに『今日は何の日』を、字の上手な人を書いてもらっている。また、元気な人には、菜園で野菜づくりをしてもらっている。多くの人がカラオケで楽しまれており、昔のことを思われたり、言葉の回復に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	元気な人は出入り自由で活動してもらっている。また、季節の花見等の気分転換を行っている。時にはパン屋さんに皆さんで買い物に行く機会もある。泊まりの人は7名～8名ドライブがてらまんのう公園等に出かける。	季節の花見や近くのパン屋、スーパーへの買い物など、利用者の希望を大切に取り組んでいる。また、泊まりの人7～8人で満濃公園へドライブに行くなど、適宜外出支援している。若いスタッフの情報で琴南の足湯に行く予定も立てられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	独立心の強い利用者様は自分自身でお金の管理を行っておられる。管理できない方は家族が管理されている。医療費等は事業所にて家族からお金を預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達やご家族との交流を進めるため、自由に電話を利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂ホールには利用者様が持参された花が飾られ、利用者様が水替えを行ってくれている。また、事業所の造りは明るく、開放的で快適な空間を作り出している。ペンションみたいと言われる人もいる。	玄関ホール、洗面所などに利用者・家族が持ってきた花が飾られており、地域の支えを感じさせられる。食堂・ホールは広く、また、天井は吹き抜けで明るく、開放感を感じさせる。カラオケ、テレビの画面が大きく、利用者は楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カラオケホール・手作りコーナー等、時期・時間に応じて活用されている。ゆったりとした椅子もあり、のんびりと寝られている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が自由に居室まで入室できるので、他の人に気を使うことなく、家族の団欒が図られている。一部の方は愛用の道具等を持参し、居心地が良いようにされている。	泊まりの部屋はベッドやタンス、大型テレビがセットされている。その他、各自愛用の椅子、手押し車などを持参している。家族は自由に居室で寛いでいる。利用者はおしゃれをしており、共用の場は社交の場であるという意識の表れと思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆さんが仲良く家族のように助け合い、声をかけあい生活をされている。一部の利用者様は床のゴミ拾い・洗面所の清掃等を行ってくださっている。		